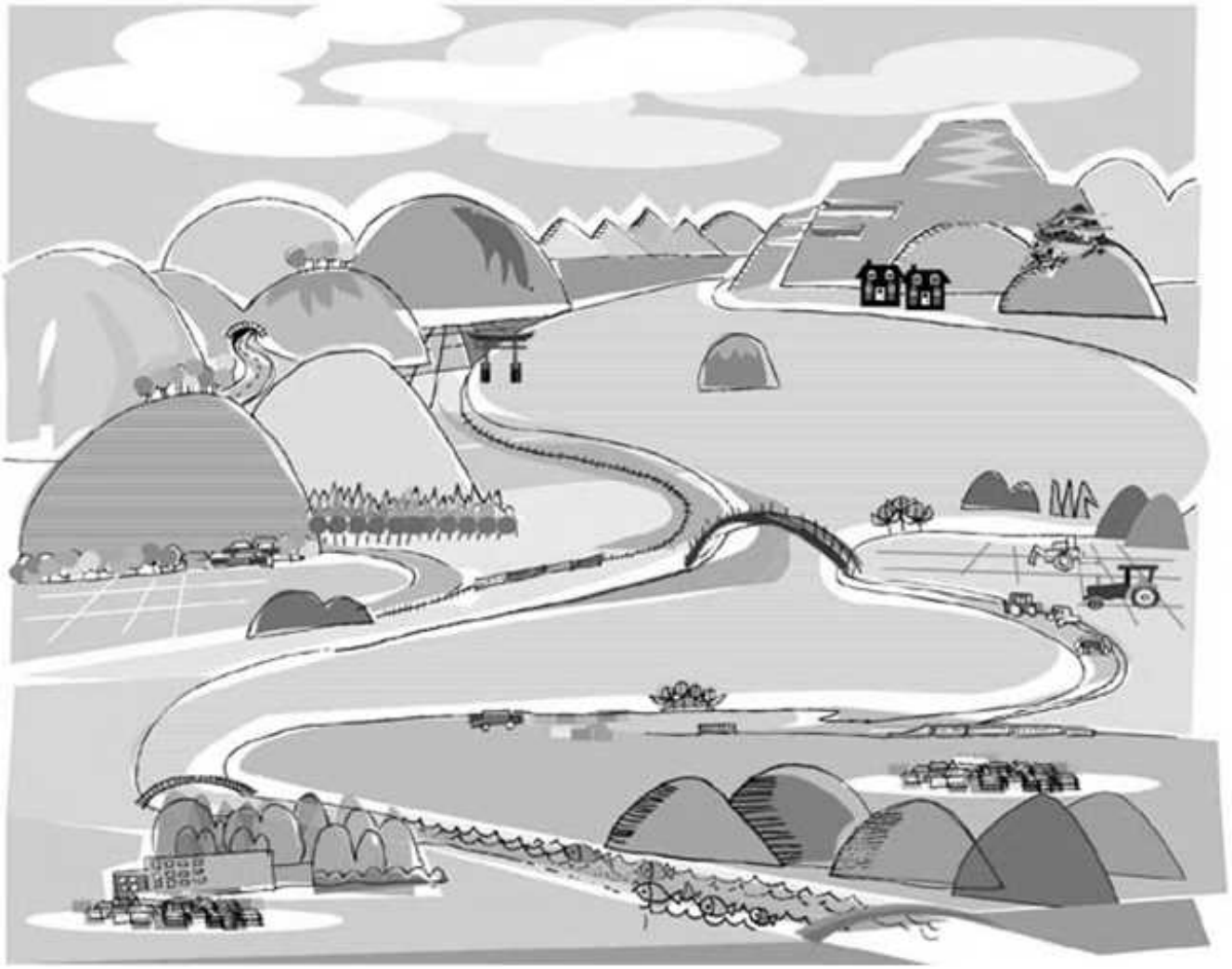
おうみのふるさと物語プロジェクト



石川輝伸
佐藤麻里
塩田余侍美
橘晃照
樋上真吾
山川弘光
山本一男
山本周作

1.わたしたちの目的

滋賀県（近江）には、各地に「ふるさと物語」（民話・伝承・伝説・神話・わらべ唄・しごと唄・まつり唄）が語り継がれてきました。こうした物語は、土地が醸し出す風土や人の営みを描いており、語り継ぐことで磨かれてきたのです。

しかし、多くの「ふるさと物語」は、今の私たちには語り継がれることなく、古老の記憶や図書館に眠ったままになっています。その結果、祖先から語り継がれてきた地域の魅力を知る人は少なく、地域の個性を感じさせない近代化したまちづくりが増えてきました。

私たちはまず、個性ある地域の魅力が詰まった「ふるさと物語」を発掘・編集・普及します。そして、この活動を通して、地域の個性を反映し、地域愛を育み未来につながるまちづくりを応援します。その結果、心豊かな社会を目指します。

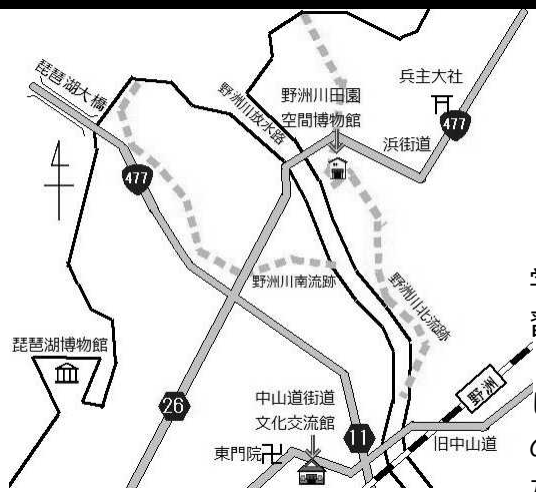
<目的の変化>

目標発表会(2/9)	中間報告会(6/9)	成果発表会(12/15)	変化理由
ふるさと物語で	ふるさと物語で	個性ある地域の魅力の詰まったふるさと物語で、	ふるさと物語の中に、地域の個性があると気付く
地域愛を育み	地域愛を育み	地域の個性を反映し、地域愛を育み	地域の人が、ふるさと物語を初めて聴いたのに、懐かしいと感じている
・未来につながる ・地域活性化	魅力あるまちづくりに貢献する	未来につながるまちづくりを応援する	物語でできることはまちづくりの応援と気付く
		心豊かな社会	物語は心豊かな社会を育むと気付く

<ふるさと物語の捉え方の変化>

目標発表会(2/9)	中間報告会(6/9)	成果発表会(12/15)	変化理由
昔話(郷土物語)を平易化	物語	物語(地域情報を活用)	理解を深め、まちづくりにつなげるため、地域情報を活用する
	民謡	里唄(地域情報を活用)	・野洲川で対岸と歌合戦した歴史のため、歌が発達し、物語の要素がある。 ・民謡は合わないと地域から名称変更の声が上がり、里唄にした。

2.わたしたちの主な活動地域と協力団体紹介



わたしたちは、野洲川下流域周辺で主に活動をしました。具体的には、旧野洲川の北流と南流の間にある「守山市中州学区」とその周辺地域です。

「野洲川でんくうの会」

平成19年4月21日に発足。野洲川の魅力について学習し広報するため、勉強会、野洲川下り、環境学習会などの活動をされています。

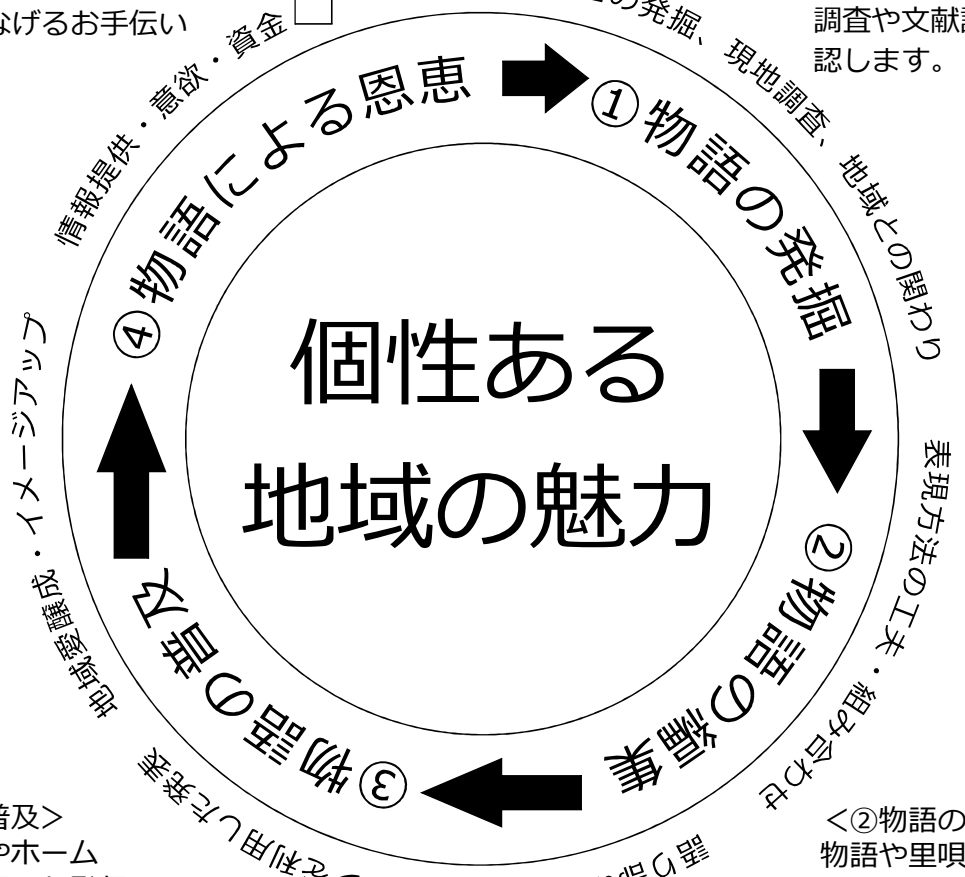
野洲川の地元団体として、わたしたちの活動に対して親身にアドバイスを頂き、旧中主町の民話資料の提供や、8月の語り部の会などで、協力をしていただいています。

この他にも、多くの個人・団体の協力により活動を行ってきました。この場を借りて、皆様に感謝申し上げます。

なお、安土でのふるさと物語の公演の要請を受けて、安土のふるさと物語活動として、楽市楽座館で語り部の会を２回開催しました。地域外の公演も経験して、おうみのふるさと物語プロジェクト活動は、滋賀県全域に広がる可能性を感じました。

3.おうみのふるさと物語プロジェクトの輪

土地の風土に合った愛があるまちづくり



<④物語による恩恵>
ふるさと物語の普及を通じて、地域愛を醸成し、ふるさとの風土の魅力を再認識して、まちづくりにつなげるお手伝いをします。

<①物語の発掘>
地域の物語や里唄(注)を、古老や図書館から発掘し、現地調査や文献調査で確認します。

<③物語の普及>
語り部の会やホームページを利用した発信などで、ふるさと物語の普及を図ります。

<②物語の編集>
物語や里唄を、調査結果と照らし合わせ、今の私達が楽しめるふるさと物語に編集します。

⑤ふるさと物語活動を楽しむ仲間の輪を広げる

⑤おうみのふるさと物語プロジェクト活動を、楽しむ人の輪を広げます。

4.物語の発掘調査活動

調査物語数：野洲川下流域周辺39話　滋賀県全体約800話

物語を調査し、現地を訪れて調査活動を行いました。語り部の会で発表した４話を紹介します。

＜河童太郎(がわたろう)物語＞

子どもたちを困らせた河童を、西念寺の僧侶が説教した。野洲市吉川に伝わる説話です。野洲川でんくうの会様に教わりました。

写真は西念寺の本堂です。西念寺を訪問し、僧侶より物語について教えて頂きました。

＜お満燈籠＞

八紘山と結ばれるため、夜の琵琶湖をたらい舟で100日連続で渡るお満。守山市今浜に伝わる切ない恋の物語です。

写真は、琵琶湖大橋料金所の隣にあるお満さんを偲ぶ燈籠です。多くの人が認識する場所に物語の碑があるのに、今まで気付かなかったことに驚きました。

＜おツブさん＞

1721年の洪水で、タニシの付いたおみこしが、守山市笠原にある蝋江神社の御祭神の前に止まり、流出を免れたお話です。

写真はおツブさんを飼っていた池の跡です。神社のお賽銭の管理者から、現在でもタニシを食べない風習が残っていると聞きました。

＜ゆうれいつぼ＞

坂本まで送ったお礼に、幽霊の女性からもらった壺。守山市赤野井の徳有さんの不思議な体験の物語です。

写真は、舟を岸に繋いでいた時に幽霊が現れた小津袋という内湖です。現在も舟が岸に繋がれており、落ち着いた場所でした。

＜調査活動回数＞

フィールドワーク調査　　：全体で６回、各個人で10回、計16回実施しました。
図書館・博物館の文献調査：全体で２回、各個人で65回、計50回実施しました。
地元の方への聴き取り調査：全体で３回、各個人で7回、計10回実施しました。

5.物語の活動経過

伝承発掘 広がれ郷土愛

おうみ未来塾生 企画

HPに県内800話「まちづくりに活用」

地域の課題解決を担う人材を育成する「おうみ未来塾」の塾生が、滋賀県内に残る民話や民謡などを発掘し、まちづくりにつなげる取り組みを進めている。"消えゆく伝承をよみがえらせ、地域への誇りと世代間交流を深めるため"、メンバーは「人の営みが自然ともに あった」ことを郷土物語は教えてくれる。地元への愛着を育みたい」としている。

同塾は、滋賀ネットワークセンター(大津市)などの呼びかけで、2012年に開講。今年は12人が在塾。12回開催し、地元に眠る昔話などを掘り起こし、普及させる「おうみのふるさと物語プロジェクト」を立ち上げた。

メンバーは今年1～5月、県内全域で文献などを調べ、80話の物語を収集。順やストーリーなどを地域別に整理し、ホームページ(HP)で閲覧できるようにまとめた。

中でも、大規模な河川改修の影響で言い伝えが消えつつある野洲川下流域に焦点を当て、「野洲川物語」を作成。HPでは、村の発展を川の神にささげて祭ったとされる「愛の内湖神社」など、野洲川とゆかりの深い物語を掲載した。「竜退治」や「竹馬よいち」、「げんか歌」、「新庄寺」などの民謡も、地元の風景や歌を交えた映像で紹介している。

8月18日には野洲市内で住民による民話の語りや、同プロジェクトの活動紹介、民話の披露などを企画した催しを開く。

今後、「ふるさと物語活用推進協議会(仮称)」を立ち上げ、取り組みを広げていく方針という。

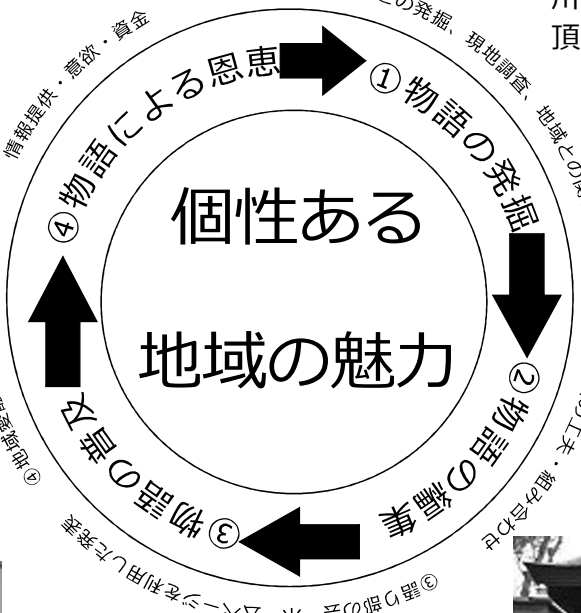
同プロジェクトのリーダーを務める会社員山本一男さん(大津市)は「物語に込められた自然への畏敬はまちづくりだけでなく、防災にもつながる」と話す。

HPはhttp://shimi-furusato-monogatari.jimdo.com/

(山本旭洋)

④私たちの活動が、新聞に取り上げられ、多くの人に活動を知って頂けました。
2013年7月23日(火)の京都新聞朝刊に掲載

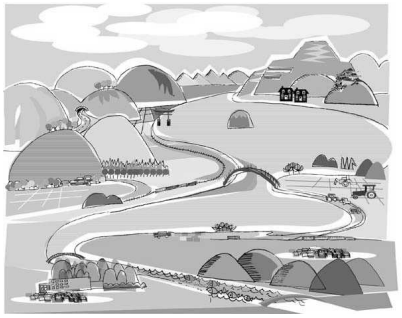
①野洲川流域で活動している野洲川でんくうの会様から、野洲川の物語や背景を詳しく教えて頂きました。



上のQRコードを、ケータイ等で読むことで、おツブさんの物語の動画をお楽しみ下さい。

①各地の図書館へ行き、図書館に眠る滋賀県内の物語を調査しました。
貸出記録が十年以上ないことに驚きました。

③語り部の会を開催し、紙芝居や現地写真をプロジェクターで投影しました。物語を語り、現地紹介をして、地域の魅力を感じてもらいました。動画はYouTubeで公開済みです。



③おうみのふるさと物語プロジェクトのホームページに物語を掲載しました。
ホームページ上では、滋賀県の物語を紹介しています。

②物語の舞台となっている現地へフィールドワークを行いました。写真は「おツブさん」の舞台である蝸江神社です。
　現地の資料を収集し、まちづくりにつなげるため、物語紹介に現地情報を追加しました。

＜編集方法の変化＞

目標発表会(2/9)	中間報告会(6/9)	成果発表会(12/15)	変化理由
郷土物語の平易化	文章表現の工夫	物語の再話	原語の良さを活かすため、編集は最小限。
	写真・絵の素材を整え、表現を工夫	フィールドワークの写真や過去の写真を使用	現地に、地域の個性があり、現地の写真が最も物語の世界を表現している

6.里唄(昔のわらべうた・しごと唄など)の活動経過

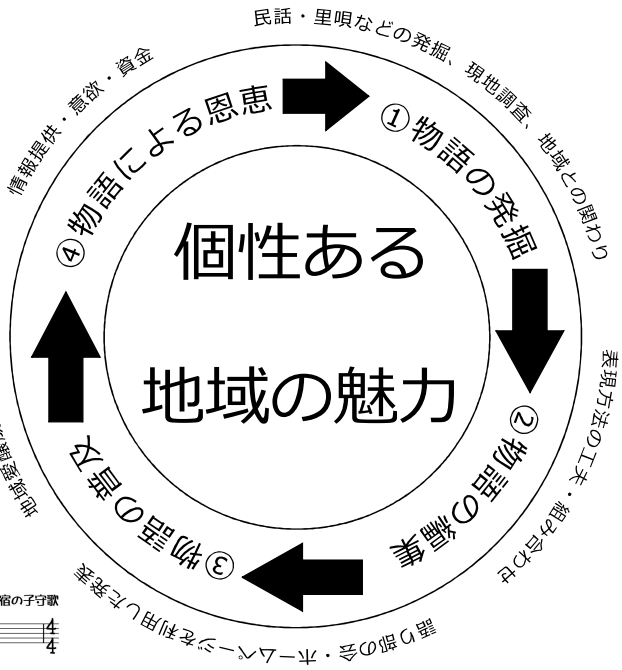
④⇒①近江八幡市安土町の楽市楽座館の公演要請に応えるため、安土の里唄を発掘しました。

　さらに、近江八幡市の白鳥川、栗東市、湖南市石部、米原市柏原(限定公開)の方々の要請を受けて、里唄を発掘しました。

①絶版となった「滋賀県の民謡」のCDなどの資料を、図書館書庫から入手しました。

①写真資料を持つ藤村和夫さんに著作権料を支払って、昔の野洲川の写真の掲載許可を得ました。

③語り部の会で、唄の背景を解説した上で、里唄を披露しました。写真を撮る観客もいて、興味を持って聴いて頂けました。



②発掘した里唄を、自ら歌って録音して音声編集しました。現地写真などを映像に用いてフォトムービーを作成しました。作業として、約2時間/曲の労力です。

③音声テープで残る里唄を広く活用するため、楽譜化しました。

③野洲川下流域18曲を含む25曲の里唄をYouTubeへ投稿し、アクセスした方々から計1238回再生されました。

＜里唄の編集方法＞

　里唄をYouTubeで動画公開するため、音声処理・フォトムービー化(歌詞テロップ付き)を行い、地域写真を追加しました。地域の写真・図を挿入することで、里唄の世界を表現しました。

中間報告会(6/9)	成果発表会(12/15)	変化理由
歌を録音し、ｴﾌｪｸﾄやﾏｽﾀﾘﾝｸﾞ音声処理を実施	ポップノイズ除去スクリーンを使用して録音	再生機器の性能が高いため、ノイズ除去や音声処理により、雑音を少なくて美しい音に加工することが必要。
音声に合わせて歌詞をﾃﾛｯﾌﾟで記載しﾌｫﾄﾑｰﾋﾞｰ化	地域の写真や関連する絵などを挿入する	地元の歌と地元の風景が見事に合っている。歌詞は原語のままが最も良いが、文字ﾃﾛｯﾌﾟがないと理解できない。ﾌｫﾄﾑｰﾋﾞｰは写真を把握できる。
古老の音声テープがある	音声テープを楽譜化し、自ら歌う	記録に残し、広めるには楽譜が必要。まず自ら歌うことで共感を得られる。

7.語り部の会

語り部の会は、当初は古老が語ることを想定していました。しかし、ふるさと物語を知らず語れない古老が多く、地域の魅力の詰まったふるさと物語を自ら語りたくなり、私達が語りの中心となりました。また、語り部の会がきっかけとなって活動が発展しました。

目標発表会(2/9)	中間報告会(6/9)	成果発表会(12/15)	変化理由
古老が子どもたちへふるさと物語を語ることで、多世代の共通認識を図る	ふるさと物語の魅力を、語り・音・写真・地図で紹介する。	・個性ある地域の魅力を発見し、仲間の輪を広げる ・ふるさと物語の情報源や、活動地域を広げるきっかけにする	・ふるさと物語を知る古老が少ない。 ・ふるさと物語の思いを伝えるには、自ら表現することも必要。 ・ふるさと物語に個性ある地域の魅力がある。 ・関心の高い参加者が、活動の幅を広げる起点になって頂ける。

私達は、野洲川下流域の調査結果を発表する語り部の会を8月と11月の２回開催しました。さらに、シガモリの要請により、安土にある楽市楽座館で10月に発表しました。

7-1.語り部の会：野洲川物語～昔と今～

2013年8月18日に、野洲市の野洲川田園空間センターで、「野洲川と共に生きてきた三人に聞く　野洲川物語～昔と今～」を開催しました。30名の参加者と、野洲川物語を楽しみました。

参加者の声	・でんくうの会の話が良かった:66% ・里唄が良かった:40% ・物語が良かった:33% ・今回は下流のみだったが、中流・上流へと展開して欲しい:33% ・まち歩きがあると良い20% ・問題点を指摘した人:0% ・アンケート枚数:15枚
でんくうの会の声	当初は、皆が知っている話を地元の人にしても意味がないと思い、外部のお客さんを呼ぶようお願いした。実際にふるさと物語を聴くと、懐かしく感じられて良かった。地元の人が集うでんくうの会の記念公演でも発表して欲しい。次回はふるさと物語の単独公演で頑張って欲しい。
私達の気付き	・皆さんが好評で良かった。 ・里唄は、歌詞の表示があり、生活に密着した内容で良かった。 ・話を聴くだけでなく、参加者と交流する時間が欲しい。 ・開演後に受付に人がおらず、遅れた人への案内が不十分だった。 ・ふるさと物語をもっと分析し、地元の現在の紹介情報を追加したい。

第1部	講演3名	野洲川でんくうの会から、北出会長、斎藤副会長、橋本副会長の講演
第2部	物語1話	おツブさん
	里唄7曲	杭打ち歌、稲の水替え歌、亥の子の餅は、堤の亥の子の唄、新庄来い、なむあみだぶつ、蛍来い竹次郎さん

8月の語り部の会の経験をもとに、11月の語り部の会を工夫しました。

	8/16　野洲川物語～昔と今～	11/17　野洲川下流域周辺の物語	変更理由
発表者	野洲川でんくうの会との共催	おうみのふるさと物語の単独開催	複数の会があると、観客に主宰者が分かりにくい。でんくうの会に頼り過ぎ
物語数	1話	3話	調査物語数が増加し、発表したい。
物語の発表形式	紙芝居画像の利用	紙芝居・写真画像を利用し、ものがたりの生まれた場所を紹介	物語をまちづくりにつなげるには、ものがたりのふるさとの紹介が必要
里唄数	7曲	10曲(しごと唄・わらべうた・昔遊び歌)	遊び歌を入れて、参加者と楽しむ。
里唄の発表形式	里唄の背景を説明してから歌う	里唄の背景を説明してから歌い、里唄の生まれた場所を紹介	物語をまちづくりにつなげるには、里唄のふるさとの紹介が必要
会場	田園空間センター	中山道街道文化交流館	ふるさと物語は、古民家の風景と合う
来場者数	30人	14人	でんくうの会さんの力は大きい
発表形式	講演会-物語-里唄	物語-里唄-昔遊び	昔遊びで楽しく交流する

7-2.語り部の会～野洲川下流域周辺の物語～

2013年11月17日に、「ふるさと物語(語り部の会)～野洲川下流域周辺の物語～」を実施しました。
守山市の中山道街道文化交流館は、趣のある古民家で、物語・里唄・昔遊びと雰囲気が合っていました。14名の参加者と、ふるさと物語と昔遊びを楽しみました。

物語3話	河童太郎(がわたろう)物語、ゆうれいつぼ、お満燈籠
里唄10曲	杭打ち歌、稲の水替え歌、竹馬よいち、蛍来い竹次郎さん、新庄来い、正月になったれば、亥の子の餅は、大波小波、ひいふのなにわら、臼すり歌
昔遊び6種	けん玉、だるま落とし、お手玉、おはじき、折り紙、コマ回し

物語の発表。

里唄「臼すり歌」を踊りました。

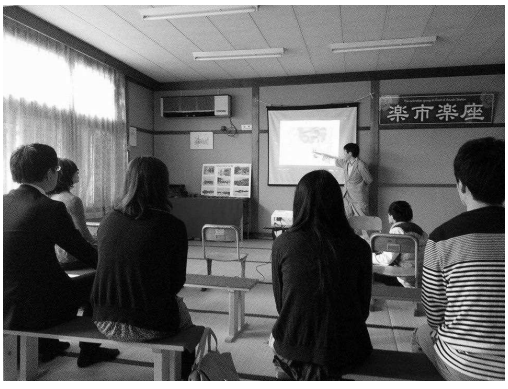
昔遊びを楽しみました。

参加者の声	地元の方の声	私たちの気付き
ふるさと物語を後世へ伝えていくことは大事なことで、心がじんときた。 素晴らしい唄・心温まり、また落ち着きます。DVDで出版できる。 昔遊びは懐かしかった。	チラシを見た時は魅力を感じなかったが、事務員の仕事として見たら、素晴らしい公演で、自らのふるさと物語に興味が持てた。地域を盛り上げたいので、また公演して欲しい。	・皆さんが好評で、この活動ができて本当に良かった。 ・昔遊びで参加者と楽しく交流できてよかった。 ・参加者を増やすのが課題。

7-3.語り部の会～安土町楽市楽座館～

若者を中心に滋賀を盛り上げたいと始めたシガモリの要請を受けて、2013年10月27日に、近江八幡市安土町の楽市楽座館で語り部の会を開催しました。地元などの若者や古老を含む15名が参加しました。

物語3話	安土の物語：苔穴大明神、蛇石、信長と常楽寺相撲
物語1話	野洲川物語：おツブさん
里唄6曲	安土の里唄：ゆすり遊び歌、中屋の子守唄、トンボつかみの歌、赤とんぼ、常楽寺の子守唄、粉すり歌



若い参加者の声	地元の方の声	私たちの気付き
米粉を使った料理を作っており、米粉作りの「粉すり歌」は面白かった。 地域にこんな物語があることを知らなかった。知ったことで身近に感じられる。	90歳位の人なら里唄を知っていると思う。私の知る歌と歌詞が違うが、訂正せずに、地元の高齢者が集う楽市楽座館の6周年記念公演で発表し、意見を伺ったら、会話が広がるきっかけになって良い。公演は素晴らしかった。	安土の物語は、3回の練習では足りず、棒読みになった。十分な練習が必要である。 安土の里唄は、短期間に地元の唄を発掘したのは良かったが、歌詞が違う意見が出たのは反省点である。

8.インターネットによる情報発信

ふるさと物語を皆様に知って頂くため、当初はホームページによる情報公開のみを考えていました。実際には、YouTube動画公開にアクセスがあり、facebookの即時性は新規顧客獲得に有効でした。

目標発表会(2/9)	中間報告会(6/9)	成果発表会(12/15)	変化理由
ホームページで情報提供⇒			変化なし
	フォトムービーを作成して、YouTubeに公開	地域写真や図を入れたフォトムービーを作成して、YouTubeに公開	ふるさと物語は語られることに価値があり、動画が有効。地域写真とふるさと物語は関連がある。地域写真を利用することでまちづくりにもつなげる。
		facebook・ブログ・ツイッターで語り部の会を広報し、参加者を増やす	新規顧客の開拓に、イベント案内の返信機能があるfacebookが有効

おうみのふるさと物語　検索

インターネットのキーワード検索機能により、私たちのホームページ・YouTube、facebook、ブログ、ツイッターを検索できます。

＜YouTube＞

YouTubeは、無料で動画を保存・発信できる無料の動画サイトです。

おうみのふるさと物語は、語られることに価値があり、静止画や文章による表現では限界があります。また、単にふるさと物語を紹介するだけでなく、ふるさとの関連情報（現地の景色や場所、過去の風習など)も紹介しました。

このため、おうみのふるさと物語を実際に録画し、動画を公開しています。
また、動画のアクセス数を比較することで、各動画の人気度を知ることができ、1281件のアクセスがありました。動画の人気ランキングを下表に示します。

順位	題名	内容	youtube アクセス数	市町村	在所
1	蛍来い竹次郎さん	蛍狩り歌	182	野洲市	乙窪
2	なむあみだぶつ	お手玉歌	174	守山市	新庄
3	大波小波	縄跳び歌	145	野洲市	比留田
4	亥の子の餅は	まつり歌	98	守山市	幸津川
5	新庄来い	まつり歌	97	野洲市	乙窪
6	竹馬よいち	子守唄	81	守山市	今宿
7	じゃんけん遊び	遊び歌	63	近江八幡市	小船木町
8	正月なったれば	正月待ち歌	59	守山市	新庄
9	おツブさん	民話	48	守山市	笠原
10	蟻の道	自然の歌	43	守山市	新庄
11	稲の水替え歌	しごと唄	33	野洲市	五条
12	臼すり歌	遊戯唄	33	守山市	矢島
13	杭打ち歌	しごと唄	32	守山市	笠原
14	粉すり歌	しごと唄	25	近江八幡市	常楽寺
15	豆おくれ(節分)	まつり歌	24	守山市	新庄
16	ピーヒョロとんび	自然の歌	23	野洲市	乙窪
17	あずきたった	しごと唄	22	近江八幡市	小船木町
18	ひいふのなにわら	お手玉歌	19	野洲市	西河原
19	コンメの歌	お手玉歌	15	栗東市	荒張
20	とんぼつかみの歌	あそび歌	13	近江八幡市	下豊浦
21	ゆすり遊び歌	遊戯唄	13	近江八幡市	中屋
22	ノーコンエー	しごと唄	10	野洲市	比留田
23	タノシひらいが	自然の歌	10	野洲市	北比江
24	しびれ京へ	まじない歌	10	野洲市	比留田
25	つっとんだ	お手玉歌	9	野洲市	安治・井口
26	石搗き歌	祝い歌	3	湖南市	出水

＜facebook・ブログ・ツイッター＞

これらは、インターネット上で双方向のコミュニケーションをする手段です。

活動の最新状況を素早く伝え、読んだ人からの反応を素早く知って活動に反映するため、読者の多い３つの手段を活用しています。また、語り部の会を広報したところ、これらの手段で知った人から、8月で5名、11月で3名の参加者を得て、活動を広めるきっかけになりました。

＜ホームページ＞

おうみのふるさと物語の活動に関する情報や、物語データベースなどを公開しています。
具体的には、以下の情報を掲載しています。

- 滋賀県に伝わる物語をエリア毎に掲載
  （あらすじ・場所・出典）
- 野洲川下流域周辺のふるさと物語を掲載
- ふるさと物語・語り部の会の開催情報を掲載
- 滋賀県内で語り部活動する人や団体を紹介
- 動画でふるさと物語を掲載

なお、動画については、無料でデータ保存可能な動画サイトであるYouTubeで保存し、ホームページから関連する動画をアクセスできるように設定しています。

ホームページを読んだ方の声	私たちの気付き
地域と人をつなげる活動は素晴らしいと感じました。是非、草津でもご活動が広がれば幸いです。ありがとうございました。	ホームページの管理・更新や物語のキーワード検索化に手が回らず、課題が多い。

9.活動のまとめと年表

おうみのふるさと物語では、野洲川下流域を主な活動フィールドと設定し、野洲川でんくうの会様の協力を得て、物語39話と里唄25曲を発掘しました。発掘した物語から４話を語り部の会で発表し、ホームページに物語のあらすじを公開し、動画をYouTubeで公開しました。

発掘した里唄25曲をYouTubeで公開し、11曲を語り部の会で発表しました。

おうみのふるさと物語活動は、地元の方々を始め、様々な方々に関心を持って頂いています。さらに、安土では、要請を受けて２回公演することができました。更に他の地域でも、語り部の会や物語調査の実施要請を受けており、今後とも活動を続ける予定です。

時期	活動の年表の内容
12月16日	おうみのふるさと物語プロジェクトのグループ結成
1月～2月	グループ活動の計画づくり、物語アンケート調査 滋賀県全域の昔話を収集してPDFファイル化して保存
2月9日	おうみ未来塾の目標発表会で先生方の指導を受ける
3月～5月	滋賀県各エリアの物語を各自で百話以上読み、まとめる。
3月～	物語の舞台をフィールドワークにより確認し、情報収集。
4月～	おうみのふるさと物語プロジェクトのホームページ開設 その後、youtubeページ等も開設
4月7日	今年度の活動地域を、野洲川中洲地域に決定
5月～	野洲川下流地域の里唄を物語活動に追加する 里唄を歌い、youtubeへ掲載する
5月26日	野洲川でんくうの会と打合せを行い、協力関係を樹立
6月9日	おうみ未来塾の中間発表会で先生方の指導を受ける
7月14日	語り部の会の内容が、私たちの民話里唄の発表と、 野洲川でんくうの会様による講演に決定する
7月28日	来年に活動予定の長浜市へフィールドワークを行った。 長浜市曳山博物館で地元の物語を紙芝居化している 「すずめの学校」の紙芝居を見学して交流を深める。
8月16日	語り部の会を野洲川田園空間博物館で開催
9月13日	語り部の会の会場を決定し、内容を私たちの民話里唄の発表と、 昔遊びの実践とし、子どもを主な対象とすることに決定する。
10月20日	語り部の会で民話を発表するため、フィールドワークを実施
10月27日	シガモリの要請で、楽市楽座館で安土の里唄等を披露
11月17日	語り部の会を中山道街道文化交流館で開催
12月8日	楽市楽座館の6周年記念イベントで、安土の物語を披露
12月15日	おうみ未来塾の成果報告会で発表

目標発表会（2/9）における計画内容	成果報告会（12/15）までの実践結果
語り部の会（夏休み7・8月）に1回	野洲川下流域で語り部の会（8月・11月） 安土の楽市楽座館で物語・里唄紹介（10月・12月）
ホームページを立ち上げ、情報提供（9-11月）	ホームページ作成（4月）YouTube、facebook、 twitter、blog

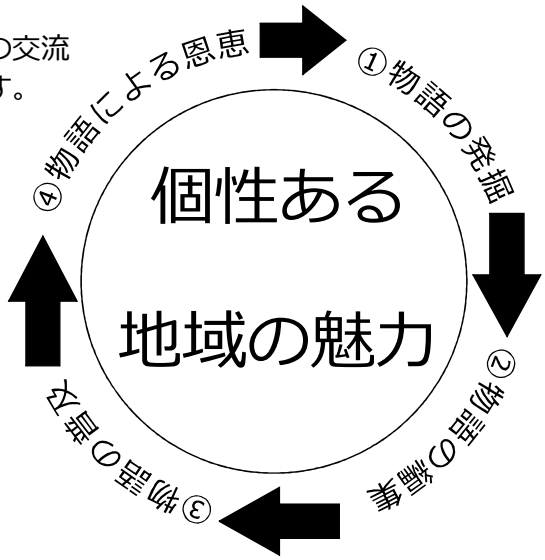
１０.今後の取組予定

私達は今後も、①物語の発掘→②物語の編集→③物語の普及を行い、多くの人に④物語による恩恵を受けて、物語の発掘作業を加速させるサイクルを回します。
さらに、⑤ふるさと物語活動を楽しむ仲間の輪を広げます。

土地の風土に合った愛があるまちづくり

④ふるさと物語をもとに商品・サービスを開発：
ふるさと物語の地域コンテンツ(地域資源)を活かした地域事業(観光・特産品など)の企画プロデュースを行い、地域の事業者や行政と、商品・サービス開発を行います。

①野洲川物語の発展：野洲川下流域から中流・上流へと広げていきます。石部宿地域の活動団体からの要請を受けており、活動する予定です。
・姉川物語の開始：湖北を代表する河川である姉川のふるさと物語をまとめます。



④ふるさと物語により、人々の交流を深め、まちづくり支援します。

.①滋賀県内のふるさと物語のデータベース化：
　滋賀県内のふるさと物語のデータを、子ども達が交流する地域単位である小学校区単位で収集。写真や絵などを追加して地域情報を関連付けます。

③ふるさと物語を知ってもらうため、インターネットを使った様々な方法で、ふるさと物語の動画・地域情報などの情報を公開します。その結果、ふるさと物語データベースとして誰でも利用できるようにします。

②里唄の編集：里唄を歌い、地域の映像と合わせてフォトムービー化します。
また、音楽資源として活用を促すため、楽譜化します。

③ふるさと物語を題材とした旅行
　ふるさと物語の現地を訪れて楽しむ自転車ツアー等を企画します。

②物語の再話化
　方言のイントネーションを古老の話から確認し、物語の語りに活かします。
　誰でも語って楽しめるようにするため、表現を工夫し、地域情報を追加します。
　子ども達も気軽に楽しめるよう、物語をデジタルコンテンツ化します。

③語り部の会の開催
　高齢者や子ども達を対象とした語り部の会を開催し、皆様とふるさと物語を楽しみます。このため、既存の語り部の会とも協力します。

⑤ふるさと物語活動を楽しむ仲間の輪を広げる

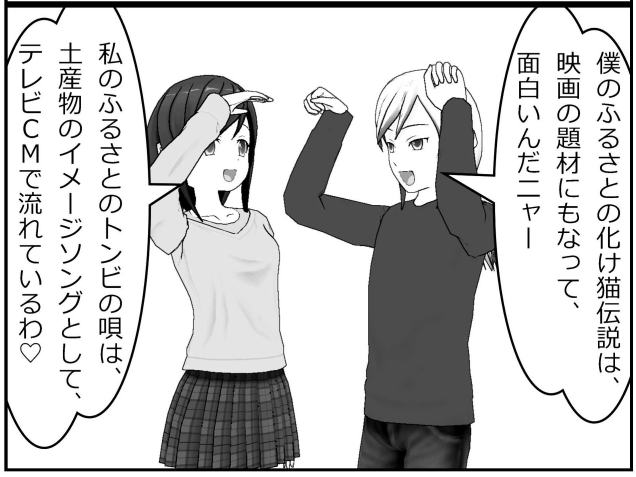
・ふるさと物語を楽しむグループづくりを支援します。
・ふるさと物語コーディネーターの育成プログラムを作成します。
・ふるさと物語活用推進協議会を設立します。
　ふるさと物語活動を滋賀県⇒全国に広げるため、既存の団体などと協議会を立ち上げます。

１１.私たちの活動の課題と、目指す将来像

私達の活動の課題として、1.地域への浸透、ふるさと物語データベース構築・活用、3.まちづくりへの寄与があります。課題を解決した将来像のイメージを漫画でお楽しみ下さい。

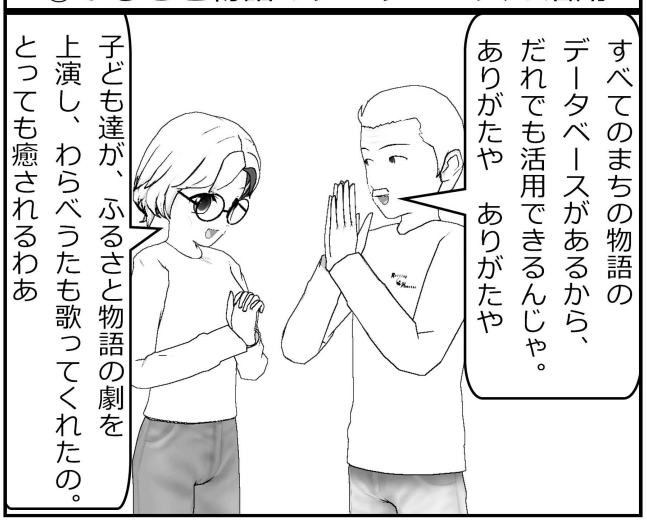
	循環図	課題	目指す将来像
1.地域への浸透	④恩恵	地域とのつながりを深めていく(時間をかけて住民主体の活動にしていく)	㋑
	④恩恵	ふるさと物語を、自分達の大切なモノにしてもらう活動にする。	㋑
2.ふるさと物語データベースの構築・活用	①調査	物語の調査(文献資料調査、古老から聴き取る)	㋺・㋩
	②編集	物語の再話化、デジタルコンテンツ化	㋺
	③普及	インターネットによる情報発信の更新管理運営	㋩
	③普及	データベースの管理・改善	㋩
3.まちづくりへの寄与	④恩恵	市民団体との連携、県下全域へ広める(観光・サイクリング・ウォーキング)	㋥
	④恩恵	行政と連携したまちづくり	㋥

㋑語り継がれるふるさと物語



ふるさと物語が、地元に住む皆様に語り継がれ、皆が知っていて、自慢し合えます。また、ふるさと物語が、映画の題材や土産物の宣伝等、まちづくりに役立っています。

㋩ふるさと物語のデータベースの活用



ふるさと物語を誰でも語って歌って楽しめるようにするため、まずはデータベースを構築します。さらに、ふるさと物語を楽しむ仲間の輪を広げ、データベースを活用できる状態にします。

㋺ふるさと物語のデジタルコンテンツ

ふるさと物語を手軽に楽しめるデジタルコンテンツを開発し、ふるさと情報と関連づけます。この結果、ふるさと物語を楽しむ人が増えていき、現地を訪れてもらって楽しめます。

㋥物語による観光促進

ふるさと物語がきっかけとなり、外部の人が訪問して楽しんでいます。土地の風土を楽しめる個性的なまちづくりを応援しています。